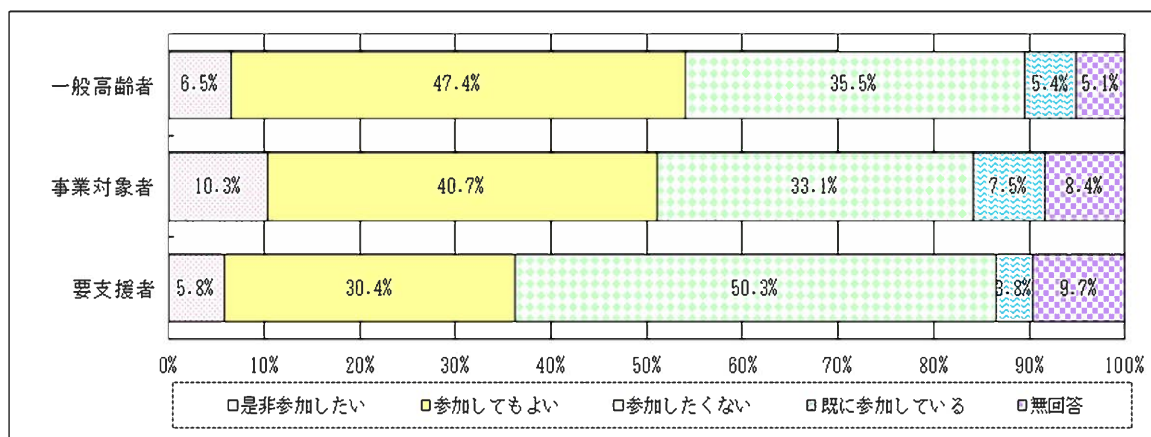


## ② 地域住民主体の活動への参加の意向

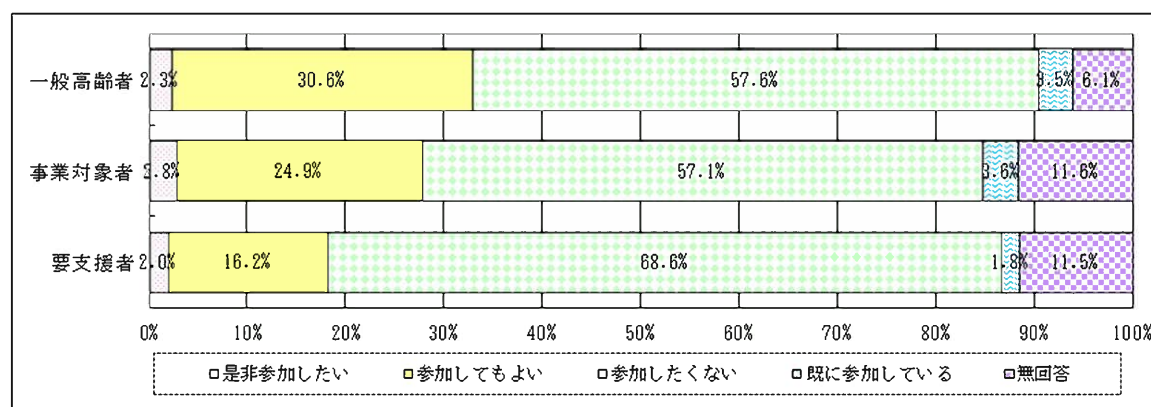
### ア) 参加者としての参加

地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に「参加者」として参加の意向を示した（既に参加している、ぜひ参加したい、参加してもよい）割合は、一般高齢者では約6割、事業対象者では約6割、要支援者では約4割となっている。



### イ) 企画・運営（お世話役）としての参加

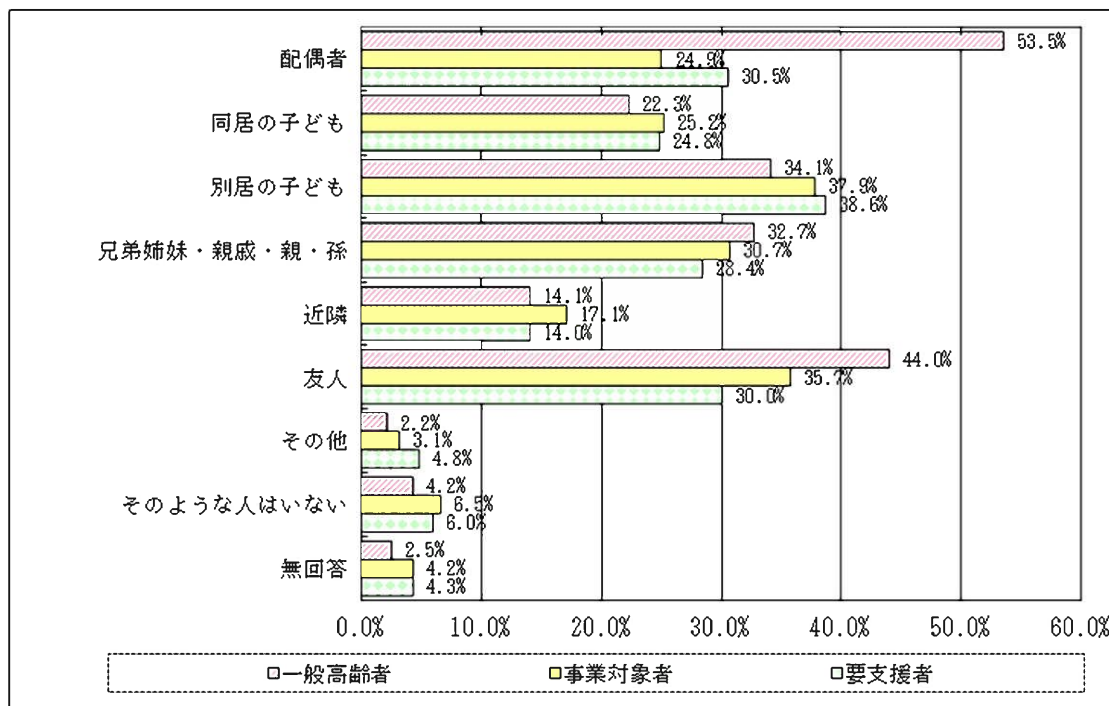
地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に「企画・運営（お世話役）」として参加の意向を示した（既に参加している、是非参加したい、参加してもよい）割合は、一般高齢者では約4割、事業対象者では約3割、要支援者では約2割でなっている。



(5) たすけあいについて

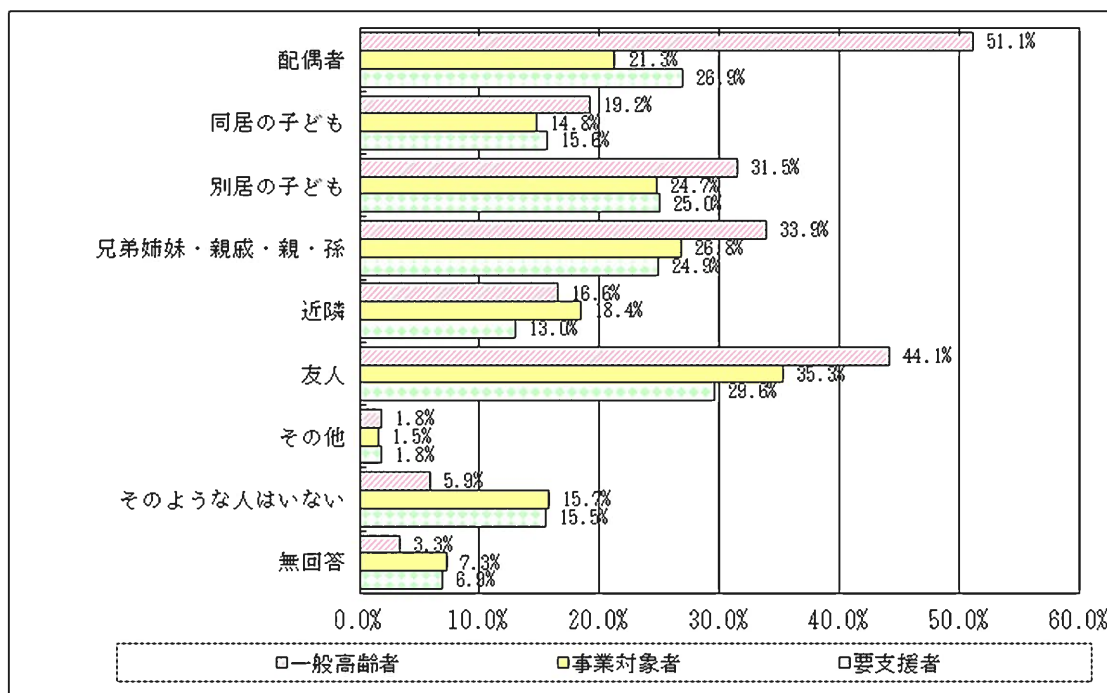
① 心配事や愚痴を聞いてくれる人について（複数回答）

心配事や愚痴を聞いてくれる相手としては、一般高齢者では配偶者が約5割と一番高く、事業対象者、要支援者では共に別居の子どもが一番高く約4割となっている。



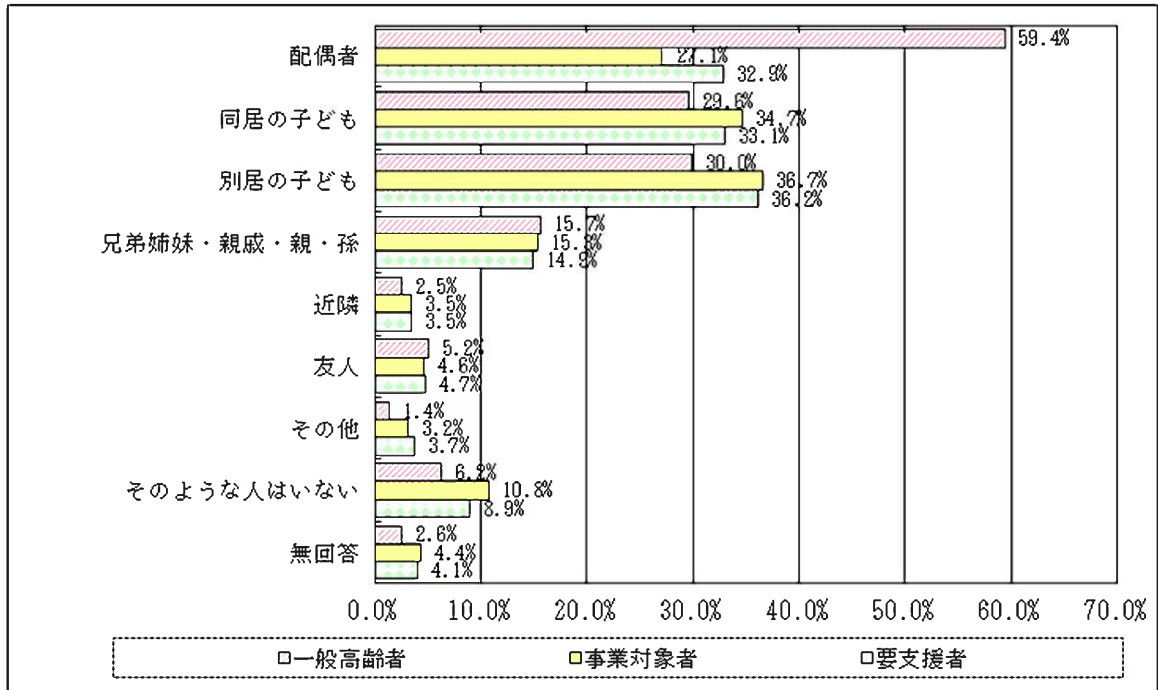
② 心配事や愚痴を聞いてあげる人について（複数回答）

心配事や愚痴を聞いてあげる相手としては、一般高齢者では配偶者が一番高く約5割となっており、事業対象者、要支援者では共に友人が一番高く、事業対象者では約4割、要支援者では約3割となっている。



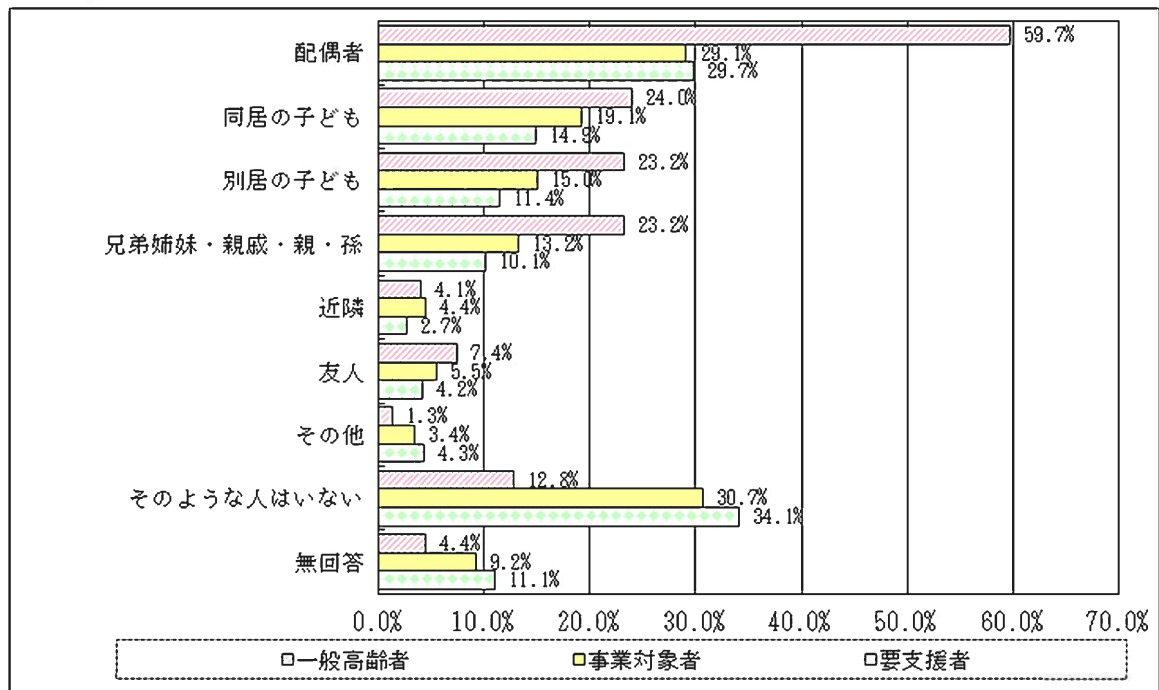
③ 看病や世話をしてくれる人について（複数回答）

看病や世話をしてくれる相手としては、一般高齢者では配偶者が一番高く、約6割となっており、事業対象者、要支援者ではともに別居の子どもが一番高く、それぞれ4割となっている。



④ 看病や世話をしてあげる人について（複数回答）

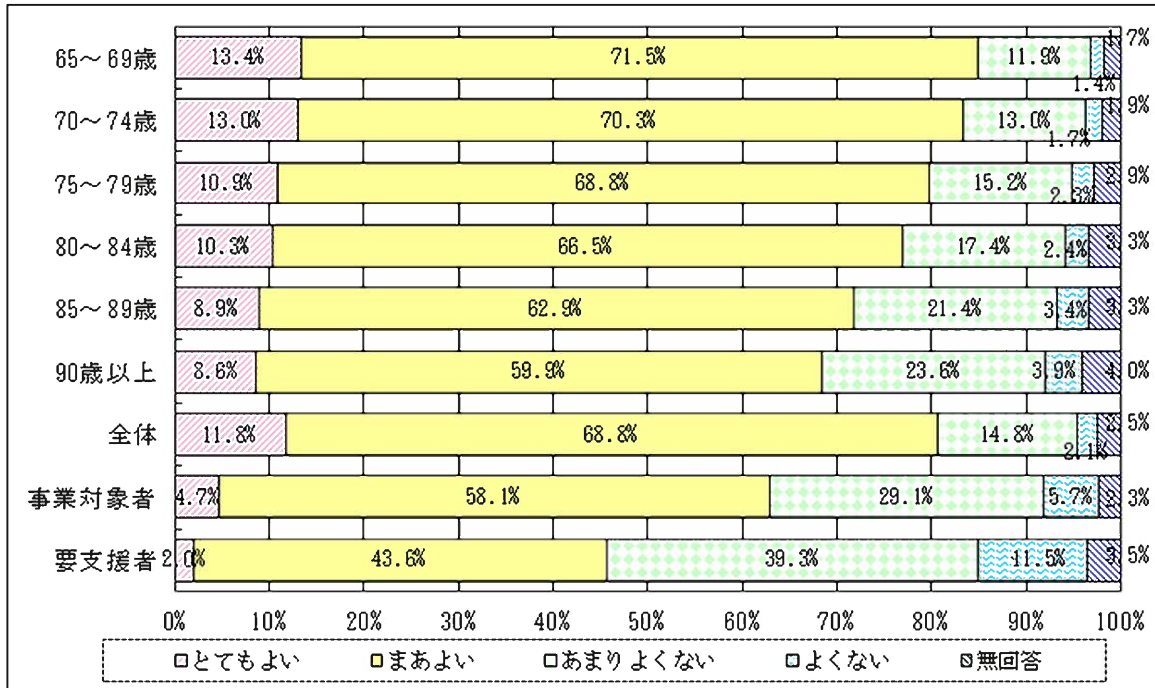
看病や世話をしてあげる相手としては、一般高齢者では配偶者が一番高く、約6割、事業対象者、要支援者では共にそのような人はいないが一番高く約3割となっている。



(7) 健康について

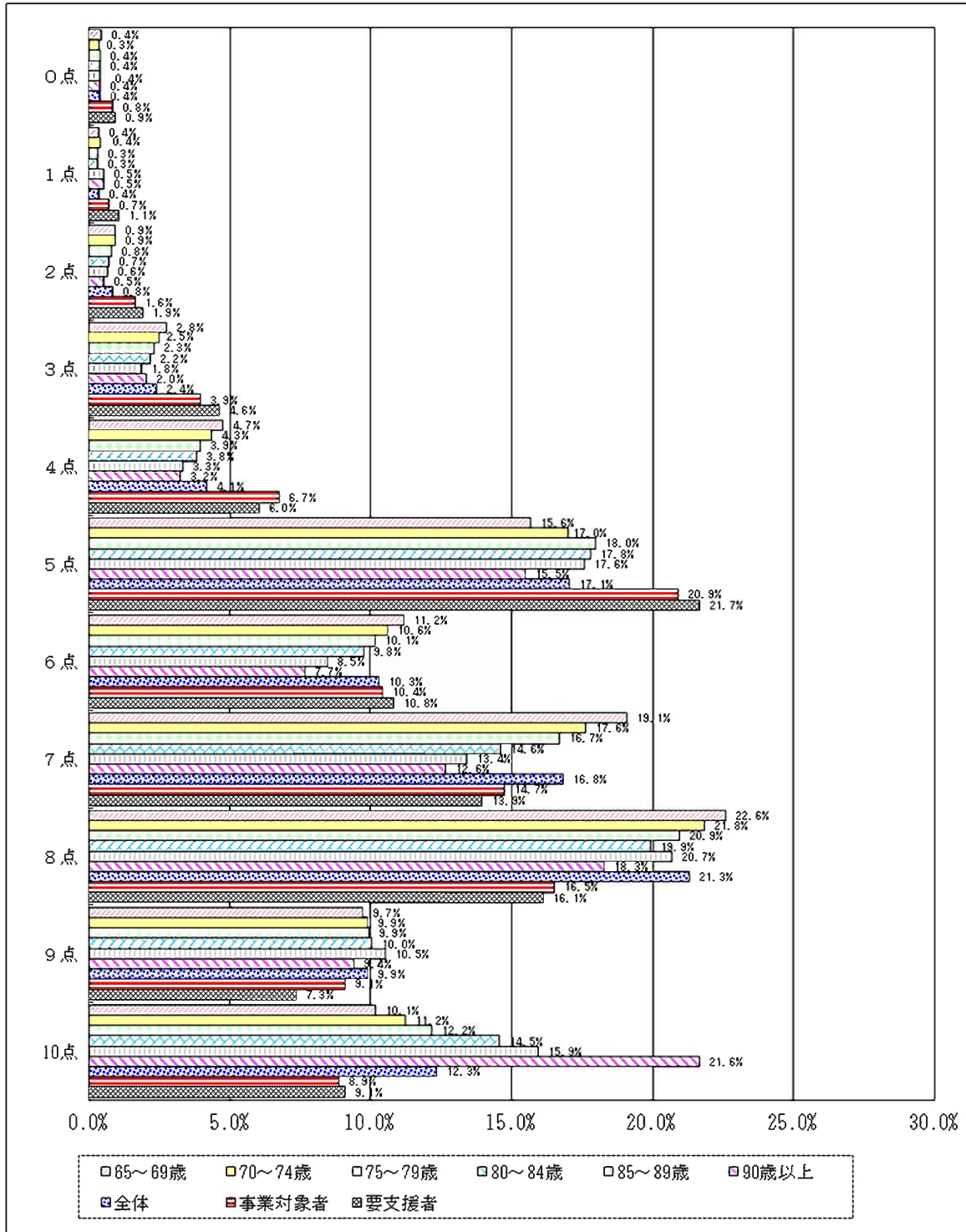
① 現在の健康状態について

現在の健康状態について、よい（とてもよい、まあよい）と回答した割合は、一般高齢者の85歳未満では8割前後となっているのに対し、85歳以上では約7割となっている。また、事業対象者では約6割、要支援者では約5割となっている。



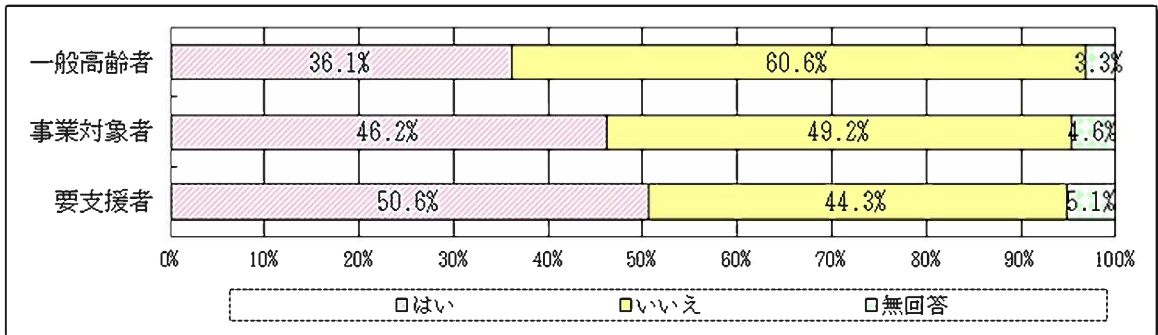
② 現在の幸福度について

現在の幸福度について普通（5点）以上と回答した割合は、一般高齢者では大半の年齢階級で約9割となっており、事業対象者では約9割、要支援者では約8割となっている。



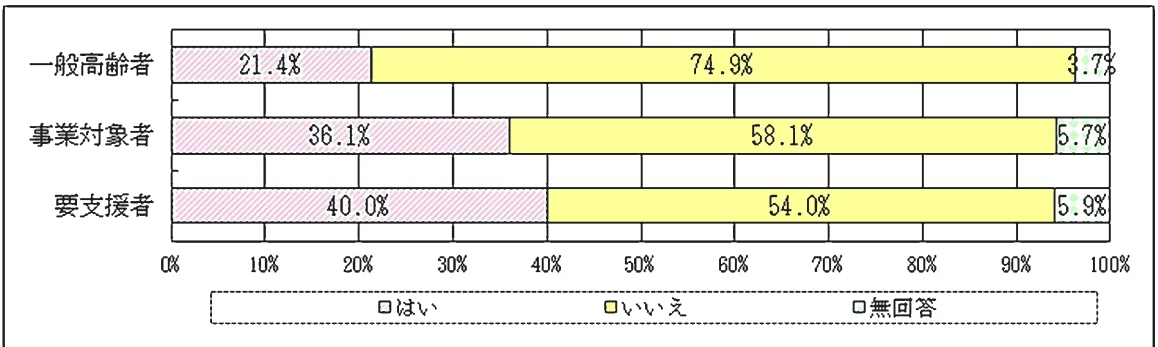
③ この1カ月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったか

この1カ月間に気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあった割合は一般高齢者では約4割、事業対象者、要支援者共に約5割となっている。



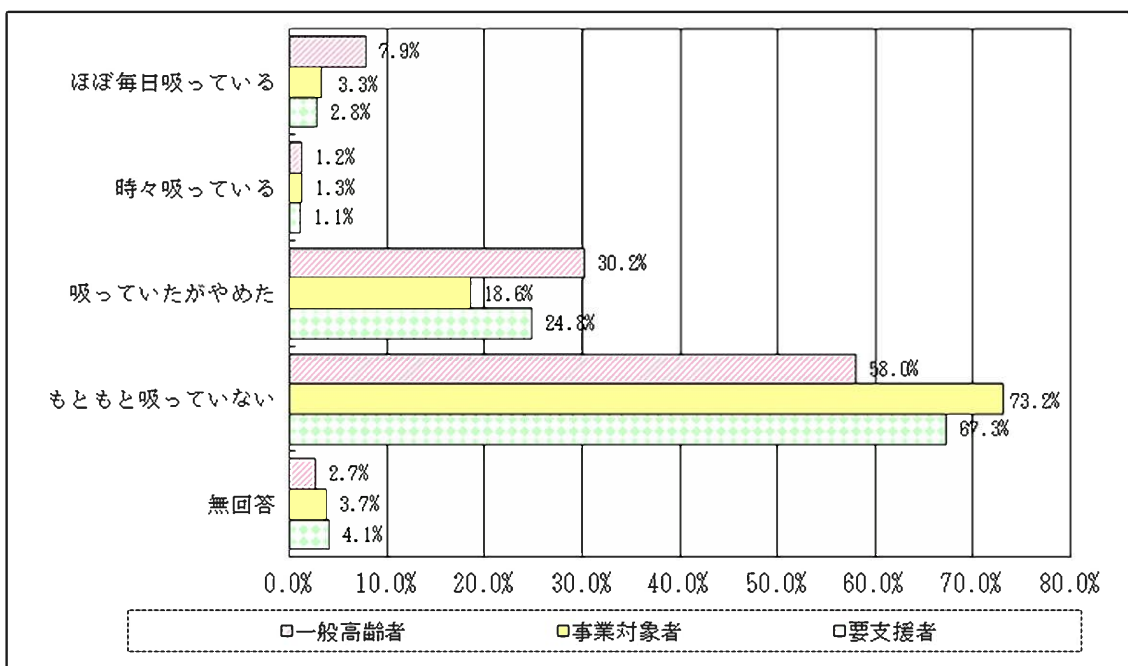
④ この1カ月間、物事に対して興味がわかない、楽しめないことがあったか

この1カ月間に物事に対して興味がわかない、楽しめないことがあった割合は一般高齢者では約2割、事業対象者、要支援者共に約4割となっている。



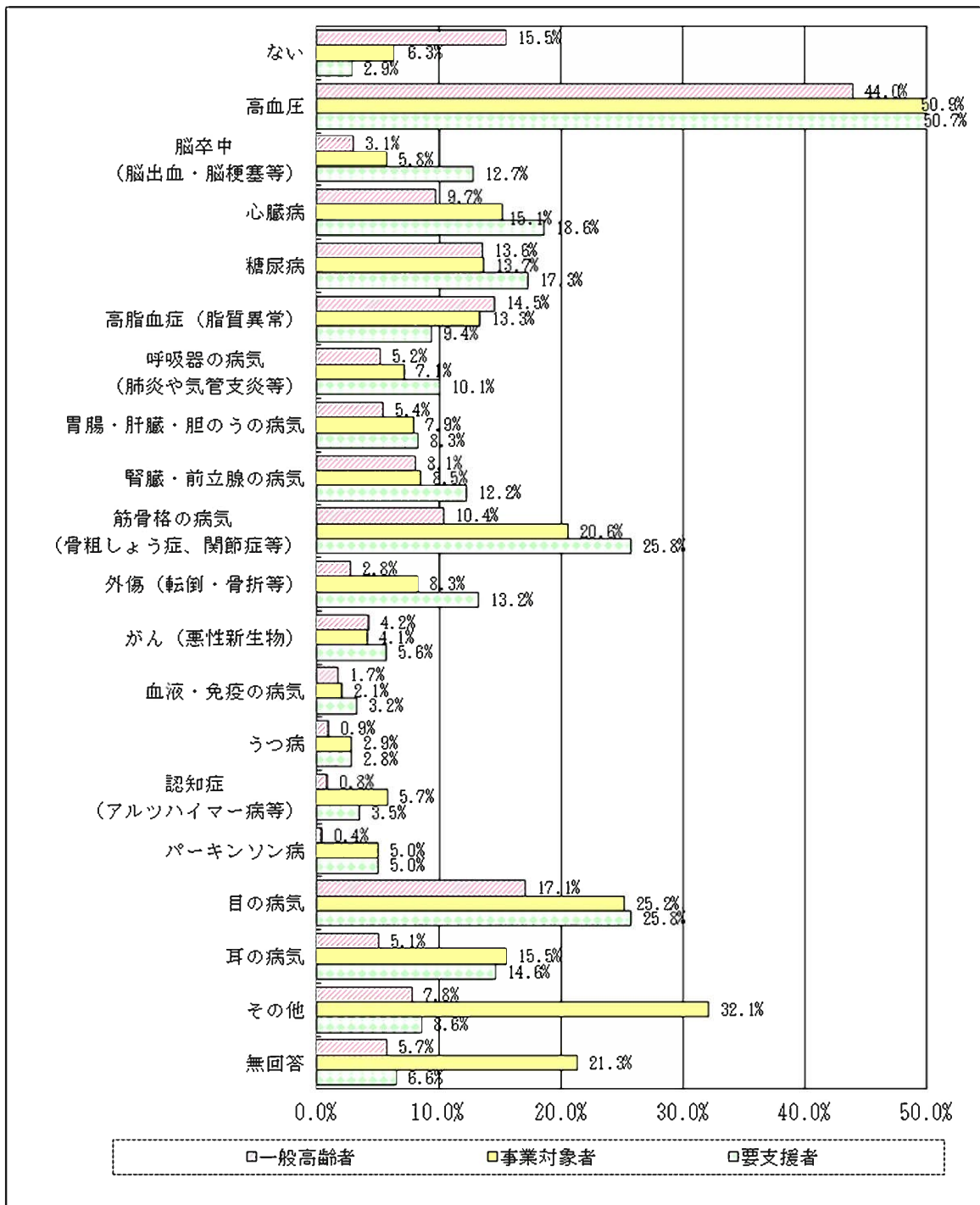
⑤ タバコを吸っているか

タバコを吸っている（ほぼ毎日吸っている、時々吸っている）割合は一般高齢者、事業対象者、要支援者共に1割を下回っている。



⑥ 現在治療中、または後遺症のある病気について（複数回答）

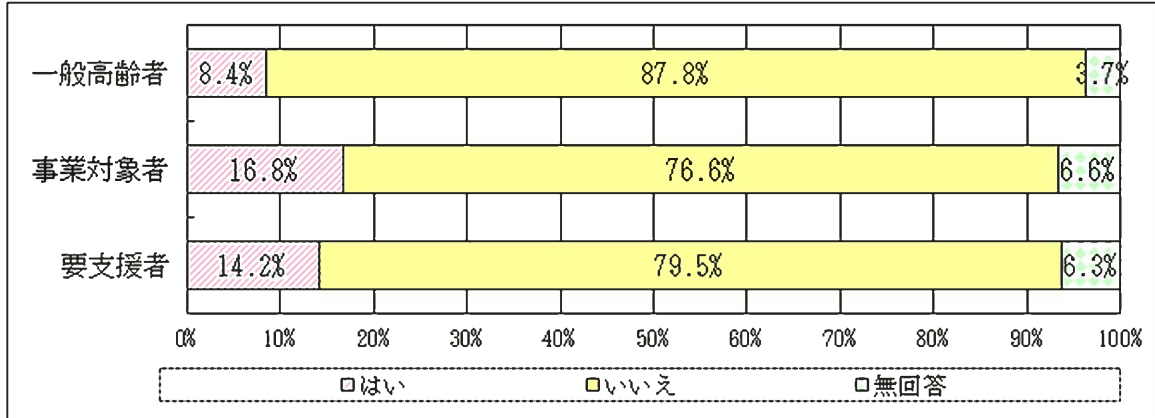
現在治療中、または後遺症のある病気としては、高血圧の割合が一番高く、一般高齢者では約4割、事業対象者、要支援者では約5割となっている。



(8) 認知症について

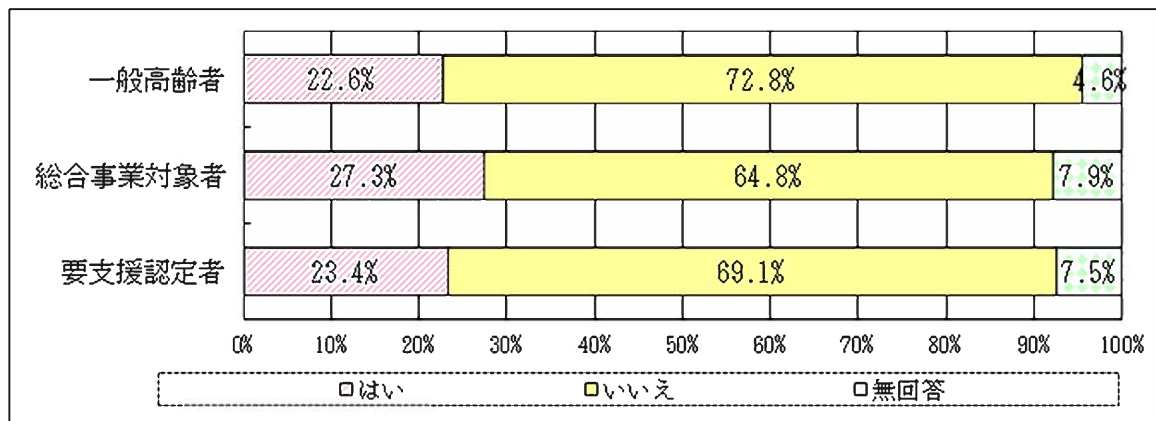
① 本人、または家族の認知症の症状について

調査対象者の認知症の症状については、あると回答した割合は、一般高齢者、要支援者では共に約1割、事業対象者では約2割となっている。



② 認知症の相談窓口について

認知症の相談窓口については、知っている割合は、一般高齢者、要支援者では共に約2割、事業対象者では約3割となっている。

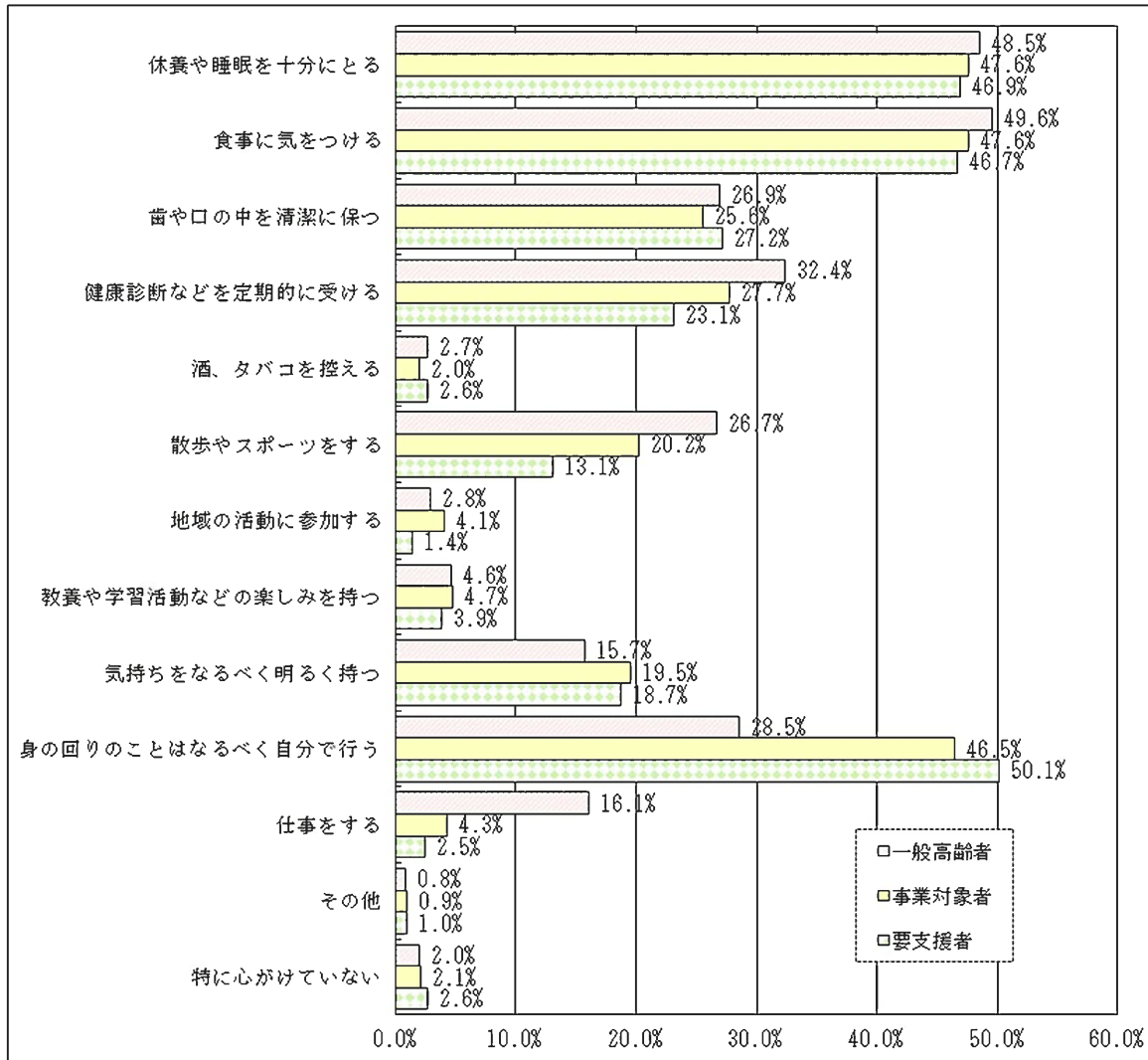




(9) 健康への取組・関心等について

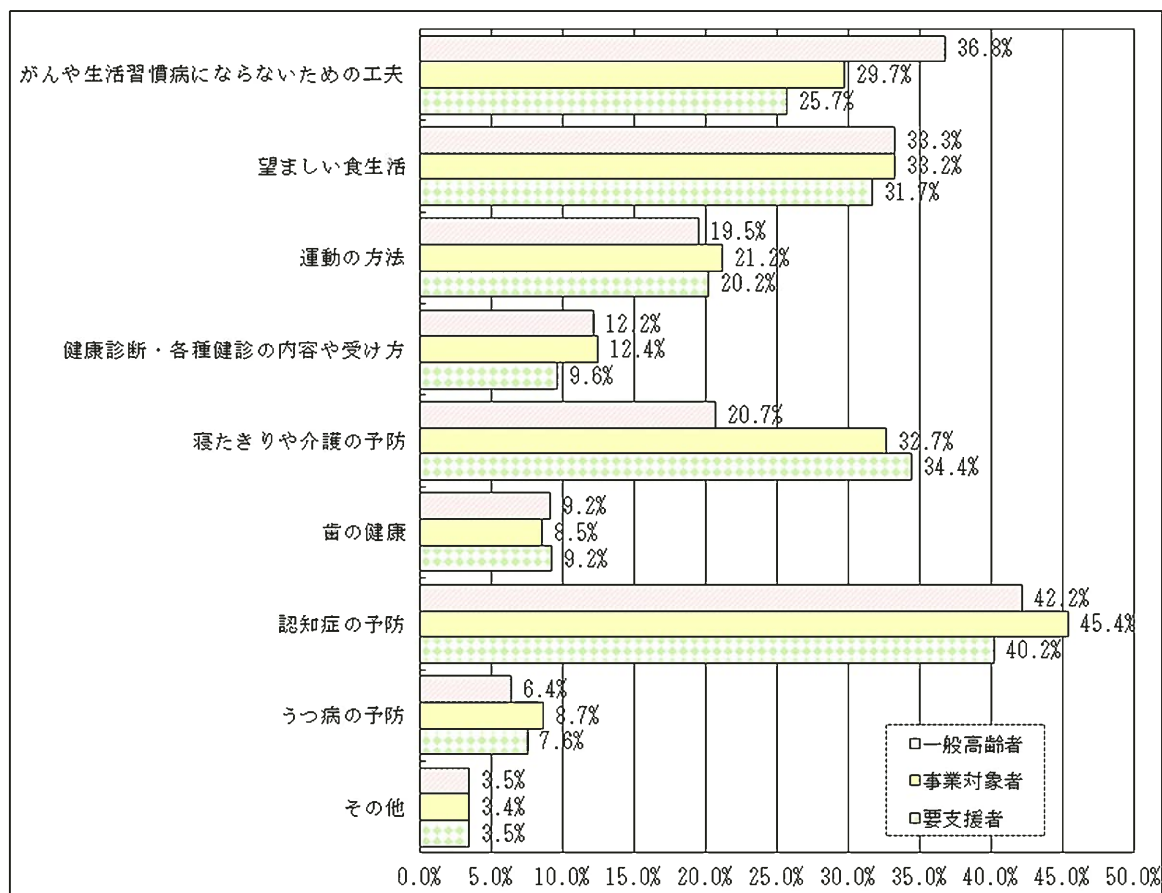
① 健康のために心がけていること（複数回答）

健康のために心がけていることは、一般高齢者では食事に気をつけるが一番高く約5割となっており、事業対象者では休養や睡眠を十分にとる等が一番高く約5割となっている。要支援者では、身の回りのことはなるべく自分で行うが一番高く約5割となっている。



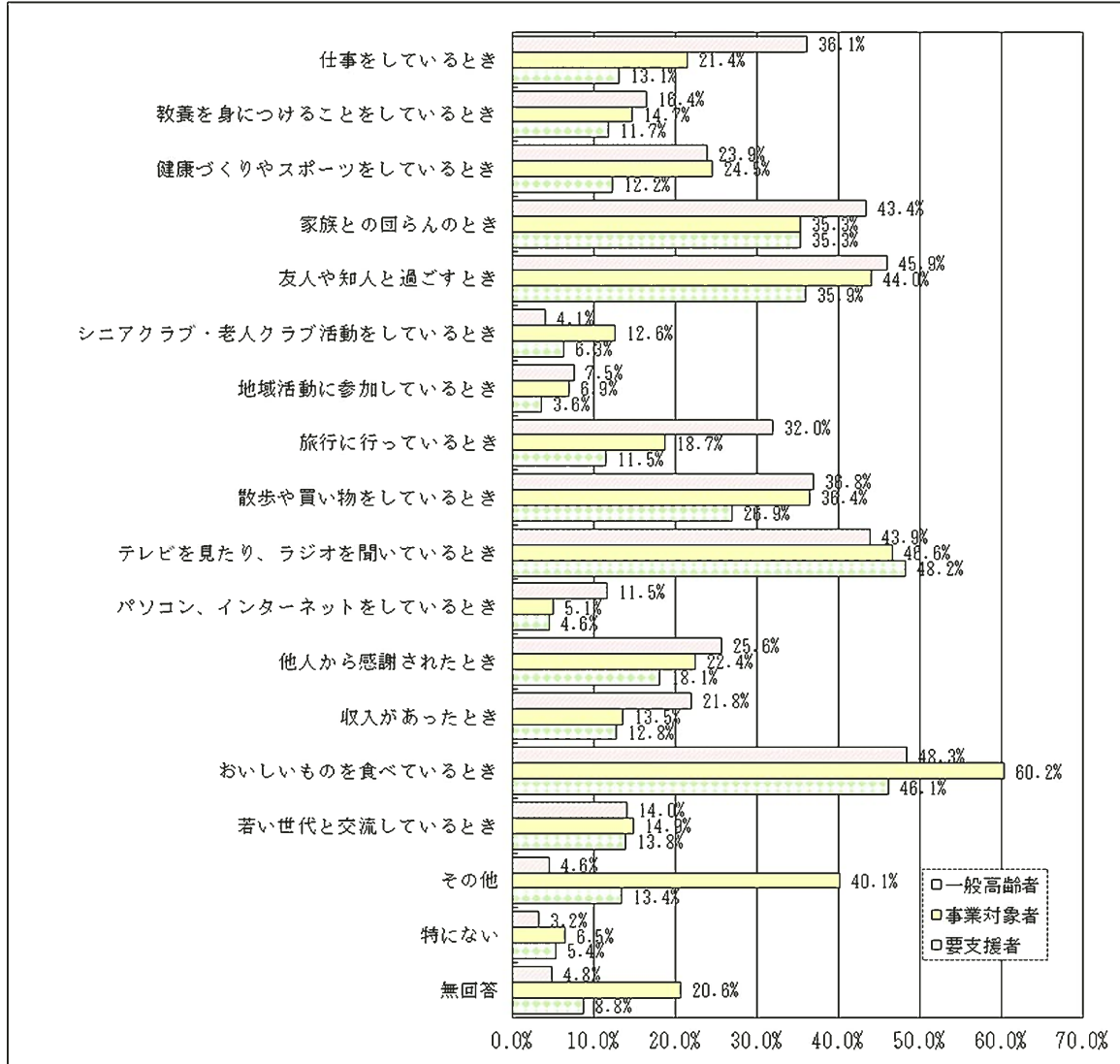
② 健康について知りたいこと（複数回答）

健康について知りたいことについては一般高齢者、事業対象者、要支援者共に、認知症の予防が一番高く、一般高齢者、要支援者では約4割、事業対象者では約5割となっている。二番目に高いのは、一般高齢者では、がんや生活習慣病にならないための工夫で約4割、事業対象者では望ましい食生活で約3割、要支援者では寝たきりや介護の予防で約3割となっている。



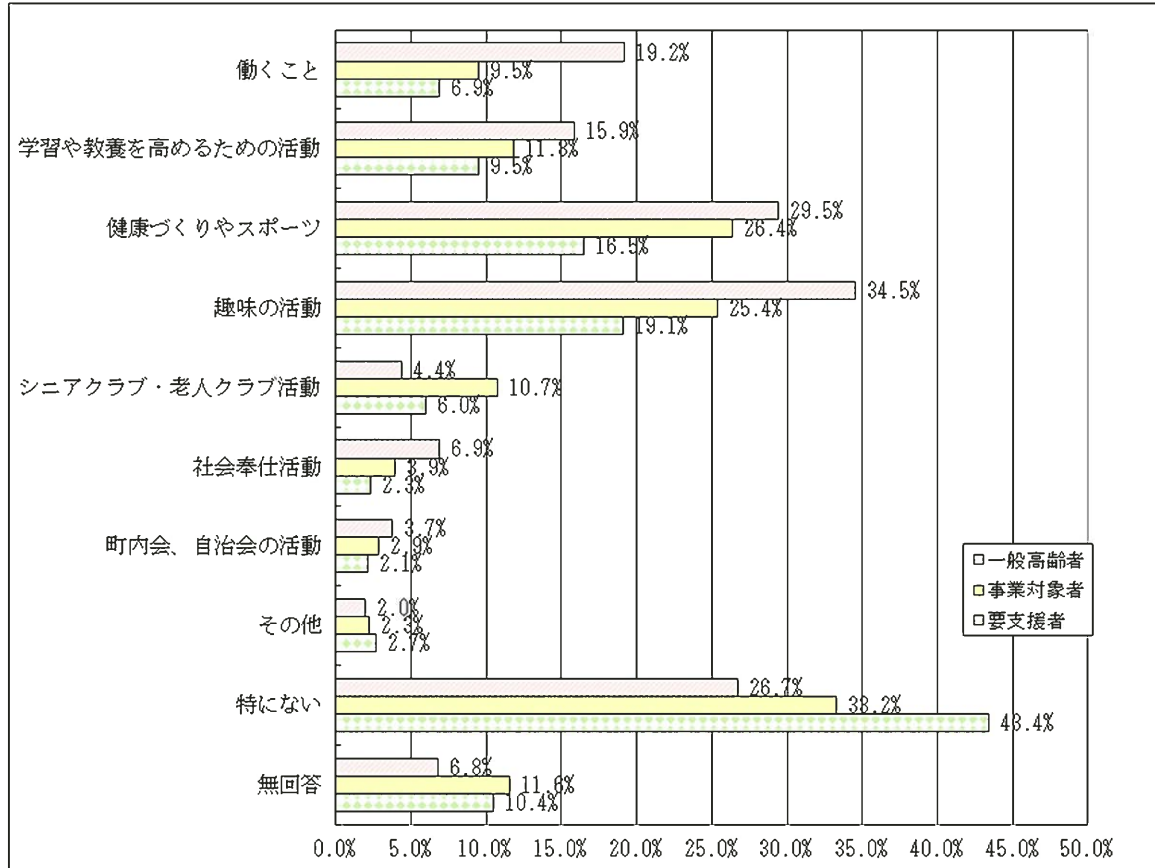
③ 生きがい(喜びや楽しみ)を感じる時(複数回答)

生きがいを感じる時は、一般高齢者と事業対象者では共においしいものを食べているときが一番高くなっており、一般高齢者では約5割、事業対象者では約6割となっている。要支援者ではテレビを見たり、ラジオを聞いているときが約5割と一番高くなっている。



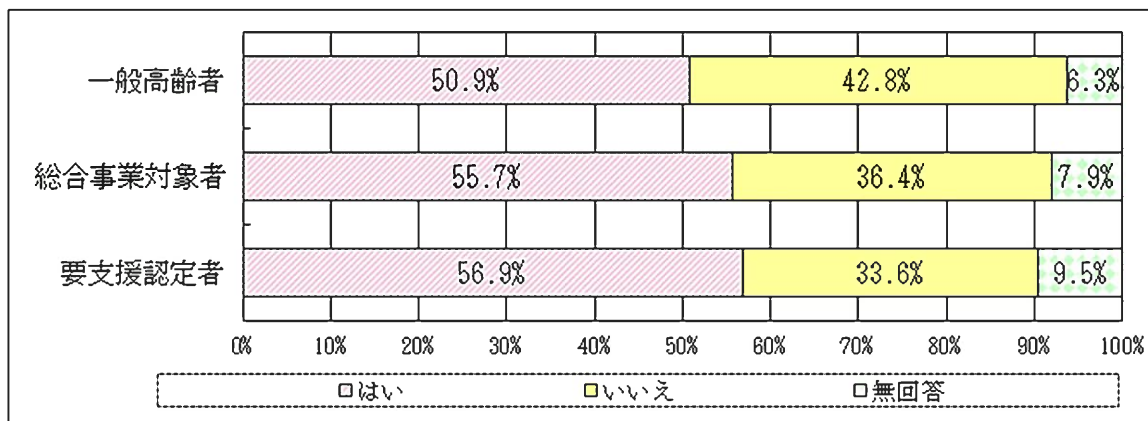
④ 今後やってみたいもの（複数回答）

今後やってみたいものは、一般高齢者、要支援者では共に趣味の活動が一番高く、一般高齢者が約3割、要支援者が約2割となっている。要支援者では、健康づくりやスポーツが一番高く、約3割となっている。一方、特にないと回答した割合も高くとなっている。



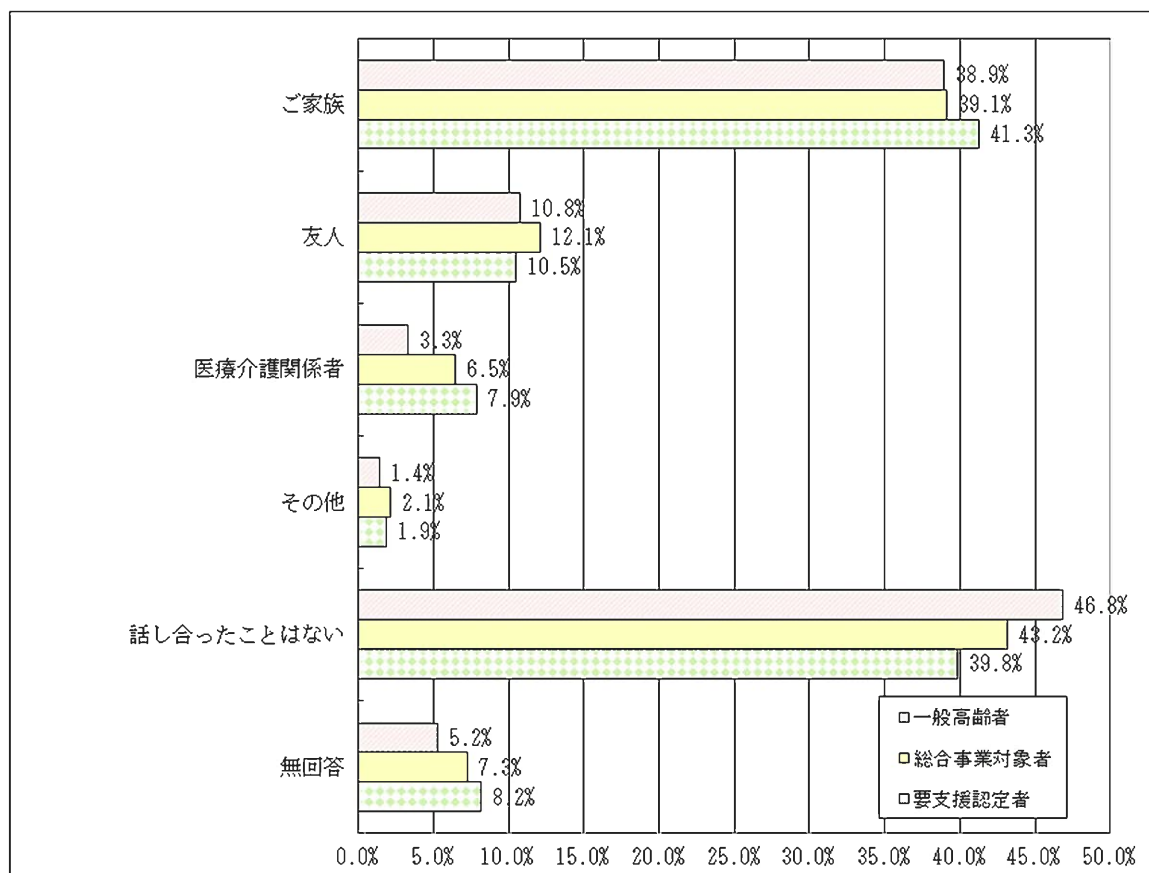
⑤ 自身に死期が迫ったときの世話や治療について、考え方ことがあるか

自身に死期が迫ったときにどのような世話や治療を受けたいか、これまでに考えたことがあるかについては、はいと回答した割合は、一般高齢者では約5割、事業対象者、要支援者では、ともに約6割となっている。



⑥ 自身に死期が迫ったときの世話や治療について、だれかと話し合ったことがあるか

自身に死期が迫ったときにどのような世話や治療を受けたいか、だれかと話し合ったことがあるかについては、一般高齢者、事業対象者、要支援者共に家族が一番高く約4割となっている。一方、話し合ったことはないの割合も高くなっている。

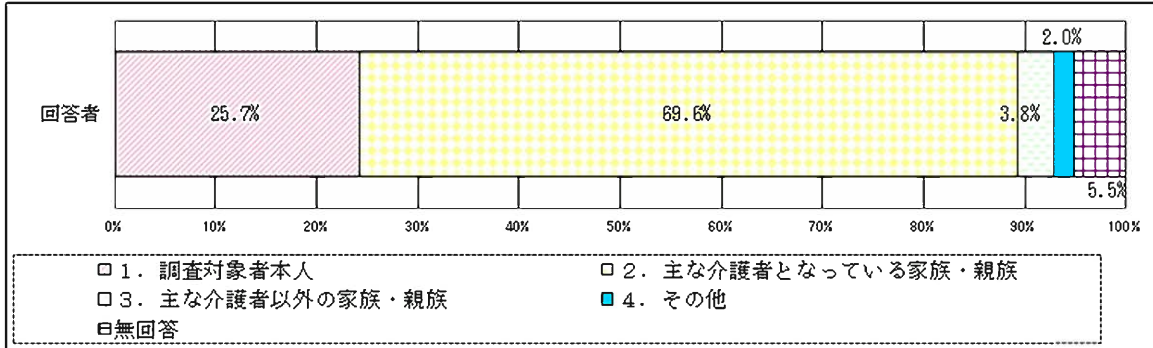


### 3 要介護者調査の結果

#### (1) 介護サービスの利用状況等

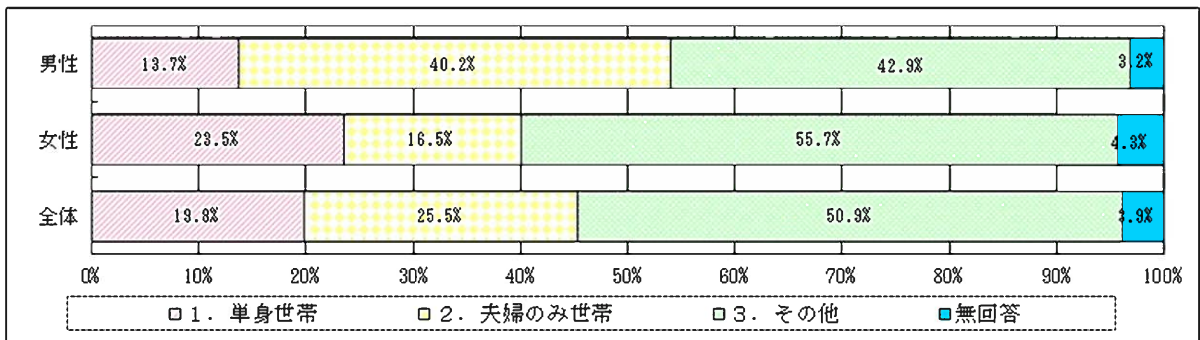
##### ① 調査票の回答者について

調査票の回答については、主な介護者となっている家族・親族が回答した割合が一番高く、約7割となっている。



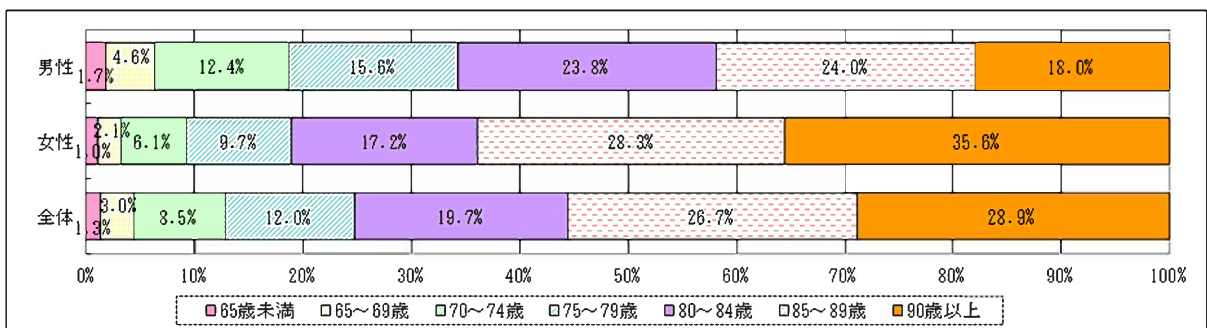
##### ② 世帯類型について

男性、女性ともその他の世帯の割合が一番高く、男性は約4割、女性は約6割となっている。また、ひとり暮らし世帯の割合は、男性は約1割、女性は約2割となっている。



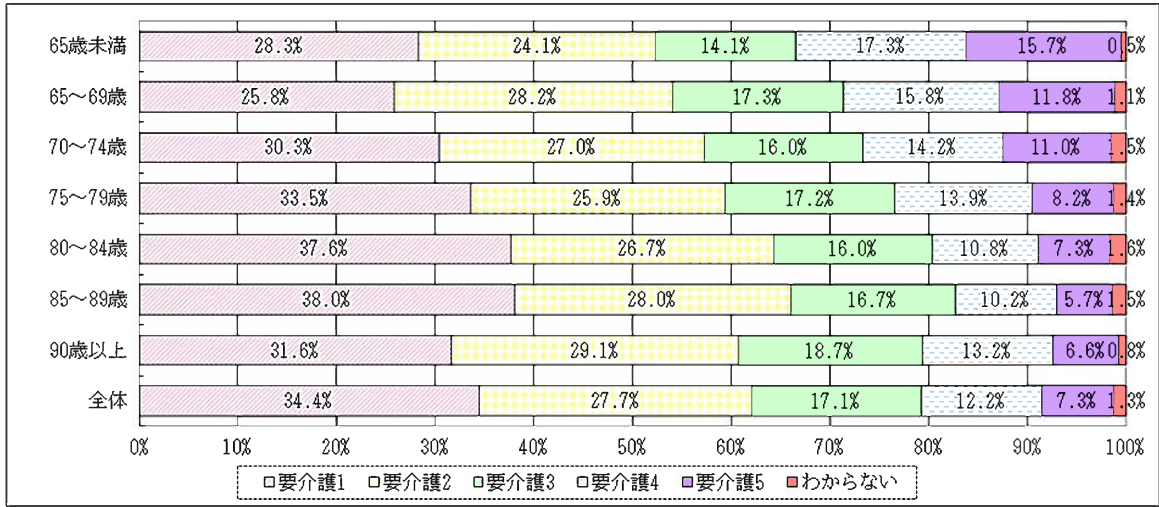
##### ③ 本人の性別・年齢について

男性は85～89歳の割合が約2割、女性は90歳以上が約4割と一番高くなっている。



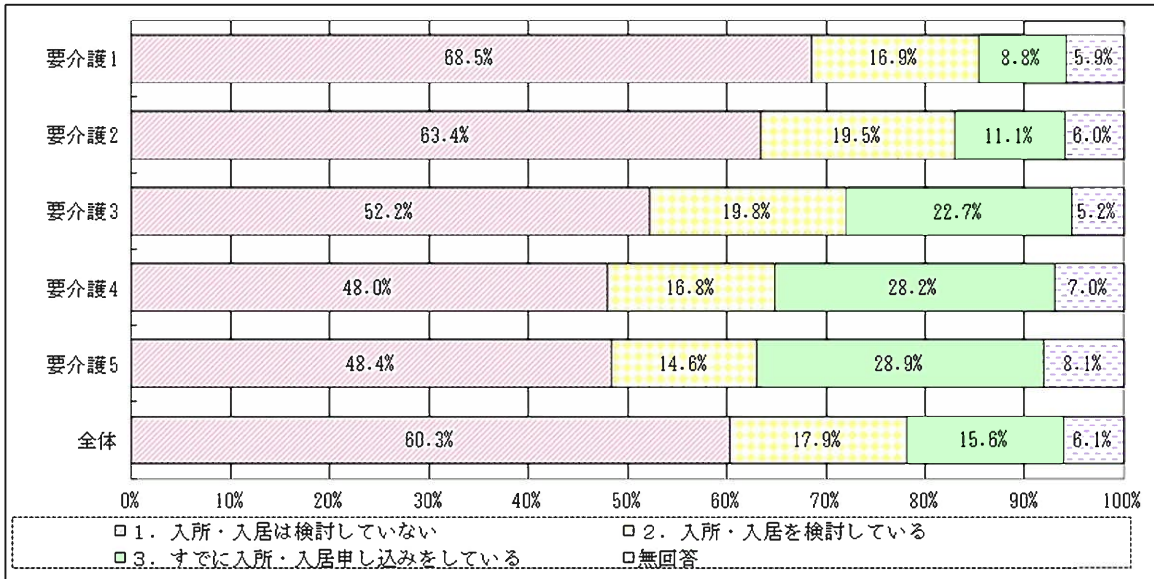
④ 本人の要介護度について

大半の年齢階級では要介護1が一番多く、いずれの年齢階層でも要介護2以下が過半数を超えている。



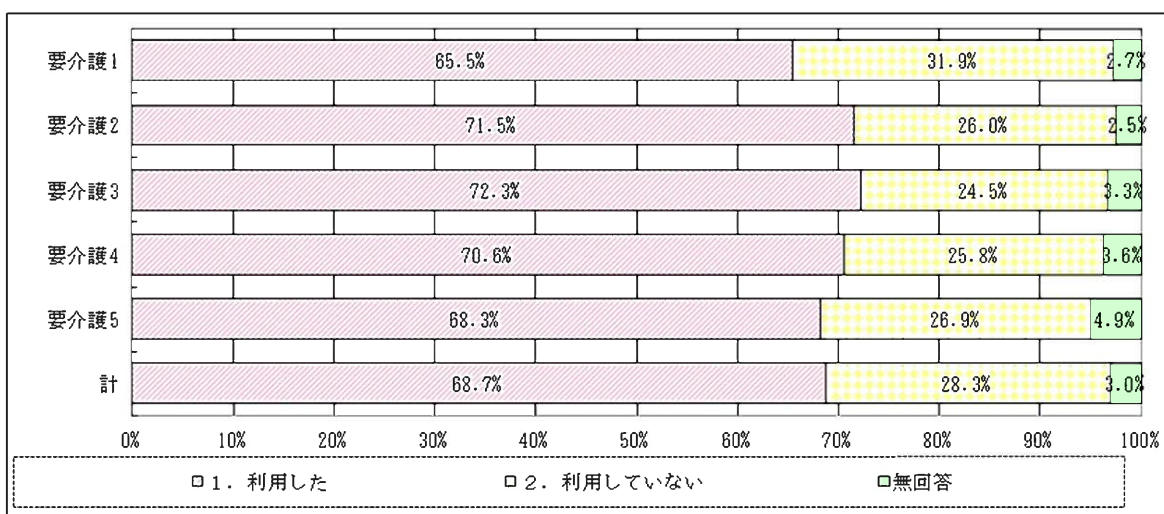
⑤ 現時点での、施設等の入所・入居の検討状況について

現時点で施設等の入所・入居を検討していない割合は要介護1で約7割であるのに対し、要介護3以上では約5割となっている。



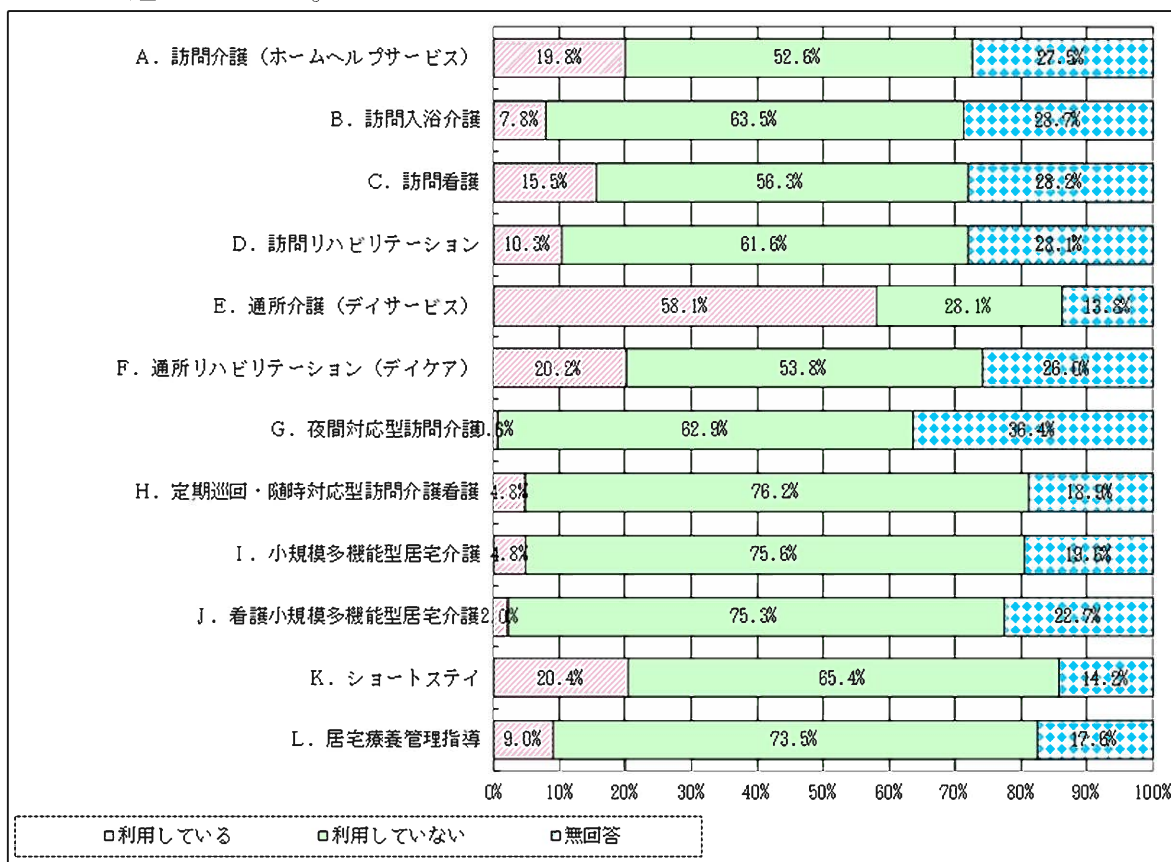
⑥ 介護保険サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入を除く）の利用状況

この1カ月間に介護保険サービスを利用した割合は、要介護度に関わらず7割前後となっている。



⑦ 介護保険サービス種別の利用状況

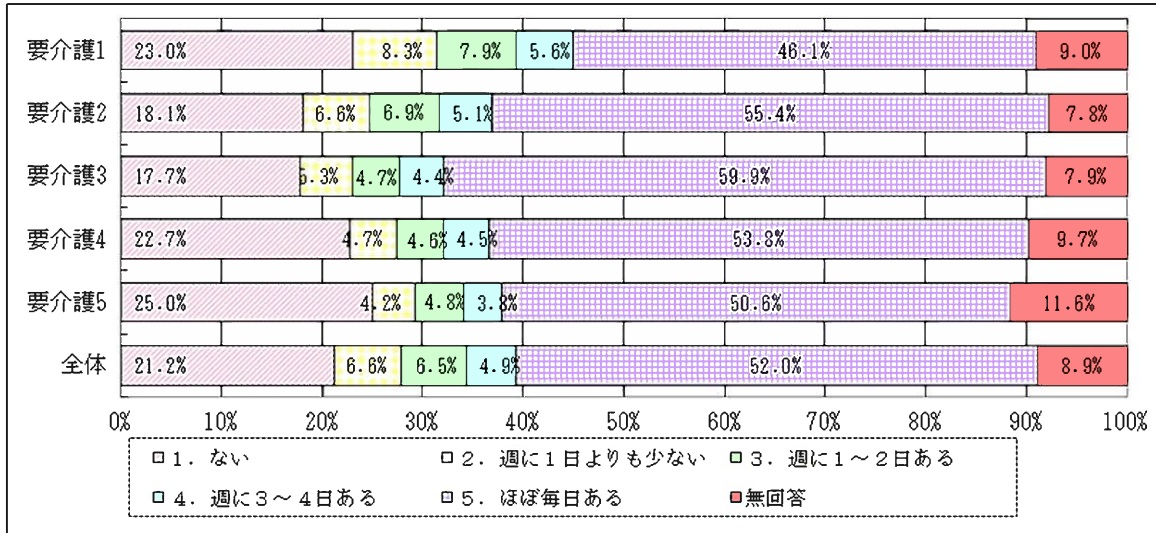
介護サービス種別の利用状況は、通所介護（デイサービス）を利用している割合が約6割と一番高くなっている。一方、夜間対応型訪問介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護など地域密着型サービスの利用状況はいずれも1割に達していない。





⑧ 家族や親族からの介護の状況について

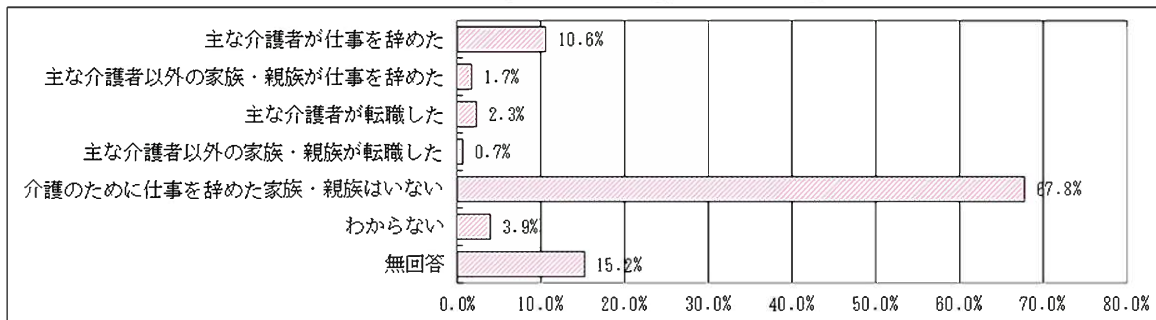
いずれの介護度においても家族や親族からの介護がほぼ毎日あると回答した割合が一番高く、5割前後となっている。一方、家族や親族からの介護がないと回答した割合は、いずれの介護度においても2割前後となっている。



(2) 主な介護者の状況等

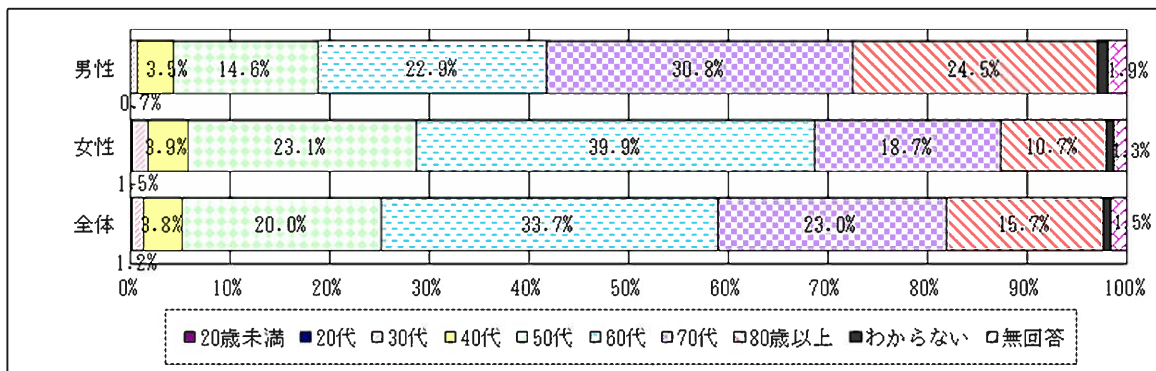
① 過去1年間の主な介護者の就業状態の変化について（複数回答）

主な介護者が仕事を辞めたり転職した割合が約1割となっている。



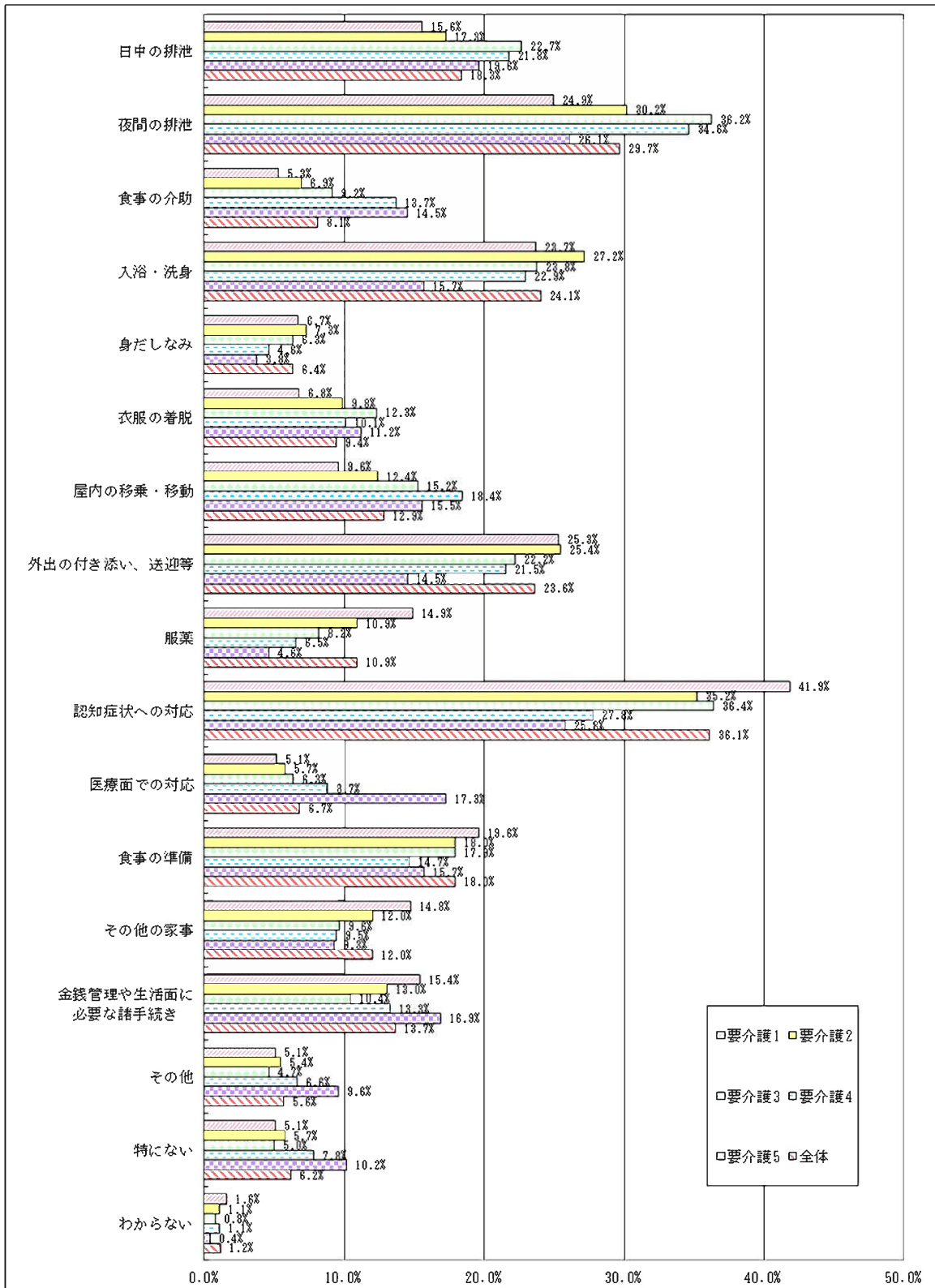
② 主な介護者の年齢について

主な介護者の年齢は、調査対象者（介護をされる方）が男性の場合は、70代が一番多く、約3割、女性の場合は60代が一番多く、約4割となっている。



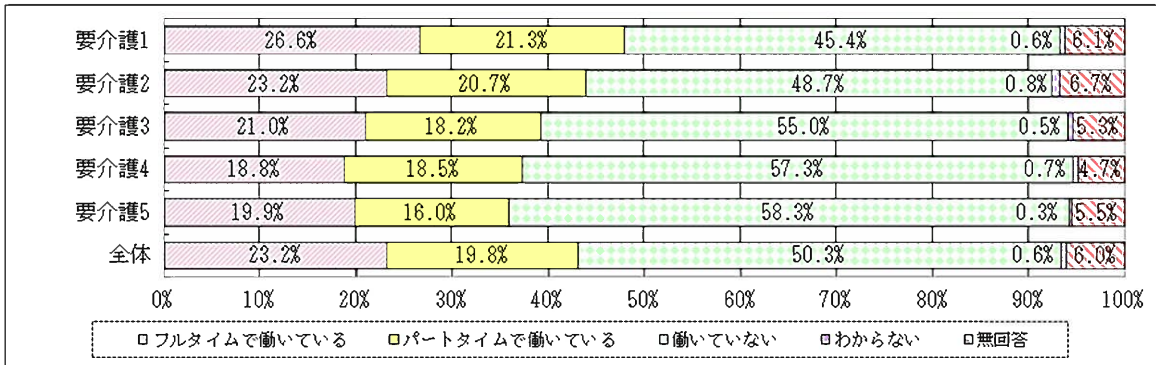
③ 主な介護者が不安に感じることについて（複数回答）

現在の生活を継続していく上で主な介護者が不安に感じていることは、認知症への対応が約4割と一番高く、次いで夜間の排泄となっている。



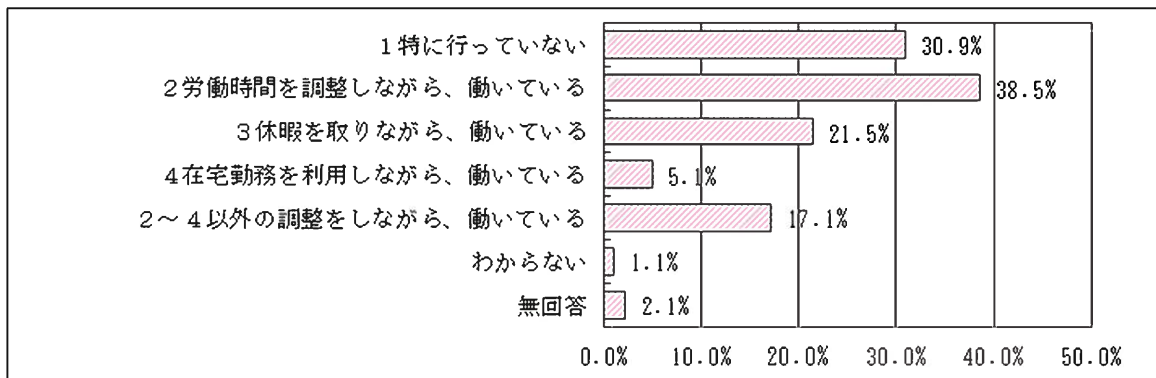
④ 主な介護者の現在の勤務形態について

主な介護者の勤務形態は、働いていない割合が一番高く約5割から6割程度となっている。一方、働いている（フルタイムで働いている、パートタイムで働いている）割合は、要介護1では約5割であるのに対し、要介護5で約4割と介護度が高くなるにつれて、減少傾向となっている。



⑤ 主な介護者の介護をするにあたっての働き方の調整について（複数回答）

介護のために働き方を調整していない割合は約3割となっている。



⑥ 主な介護者が働きながら介護を続けていけそうかについて

続けていくのは難しい（続けていくのは、やや難しい、続けていくのは、かなり難しい）と回答した割合はいずれの介護度でも約2割となっている。

